

三研工業株式会社 環境経営レポート

2023年度

(対象期間 2023年4月～2024年3月)



目次

1. 組織の概要	1頁
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	1頁
3. 環境経営方針	2頁
4. 実施体制	2頁
5. 環境経営目標	3頁
6. 環境経営活動計画	4頁
7. 環境経営目標の実績	5頁
8. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	6頁
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	7頁
10. 代表者による全体評価と見直し・指示	7頁

2024年 5月12日発行

2024年11月21日改定

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

三研工業株式会社
代表取締役社長 岩田 護

(2) 所在地

本社・工場 東京都葛飾区東立石2丁目20番11号
日本橋 営業所 東京都中央区東日本橋2-27-6 昭和ビル5階

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 営業・製造 統括 中宗 亜弥 TEL03-3697-3231
役割・権限 構築・運用・維持に関する実務上の権限

担当者 営業部 鳩谷 泰雄 TEL03-6810-7711
役割 運用・維持に関する実務

(4) 事業活動内容

樹脂・金属試作部品の製造

(5) 事業規模

事業規模	年度	2023年度		
	単位	本社	日本橋	三研工業全体(合計)
売上高	億円	8.14	3.59	11.73
現場売上高	億円	1.25	0	1.25
従業員(本社)	人	43	16	59
延べ床面積	m ²	700	284.6	984.6

(6) 事業年度 4月から3月

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

- (1) 対象範囲 「(1. 2)所在地(本社・工場/日本橋営業所)」に記載
- (2) 活動範囲 「(1. 4)事業活動内容」に記載
- (3) レポートの対象期間及び作成日 「表紙」に記載

3. 環境経営方針

環境経営方針

基本理念

当社は樹脂・金属の試作部品の製作を主な業務として、より良質で多彩なサービスの提供を目指してものづくりに取り組んでいる企業です。作れるものを作るのは作業であり、お客様が求めるものを作るからこそビジネスであると考え、独自の技術を創造し続けながらより多くのお客様に満足していただけることを目指しています。

そして、地球及び地域環境への影響と責任を認識し、全従業員一丸となって未来のために役立つ企業活動をしていきます。

基本指針

1. 当社は、関連する環境法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、環境経営システムの継続的改善に取り組みます。
2. 当社は、次にあげる事項を重要テーマとして、環境経営目標を設定し、見直しの仕組みを設け、取り組みます。
 - 1) 事業活動の効率化を図り、電力使用量の削減に取り組みます。
またエコドライブ徹底により自動車の化石燃料使用量の削減に取り組みます。
上記2項目の取り組みにより二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
 - 2) 工場で発生する廃棄物の削減に取り組みます。
 - 3) 節水による水使用量の削減に取り組みます。
 - 4) 品質の高い製品・サービスの供給を行います。
 - 5) 地域住民に配慮した操業を目指します。
 - 6) 全従業員のエコに対する意識改革をしエコ活動レベルを向上します。
3. 当社は、この方針を全従業員に周知すると共に、社外にも公表します。

制定日 2017年 7月28日

改定日 2022年 4月 4日

三研工業株式会社
代表取締役 岩田護

4. 実施体制

【環境経営活動実施体制図 役割・責任及び権限】

経営者 (代表取締役社長 岩田護)			
環境管理責任者 (営業部統括部長 中宗亜弥)			
EA21事務局 (日本橋営業部部長 鳩谷泰雄)			
製造部 製造部門責任者 (製造部部長 岩田護) 13人	製造部 品質管理部門責任者 (製造部部長 岩田護) 15人	本社営業部門 責任者 (営業部統括部長 中宗亜弥) 15人	日本橋営業部門 責任者 (日本橋営業部部長 鳩谷泰雄) 16人

役割	責任及び権限
代表者 (経営者)	1. 取り組みの対象組織・活動の明確化 (要求事項1) 2. 経営における課題とチャンス of 明確化 (要求事項2) 3. 環境経営方針の作成、全従業員に周知 (要求事項3) 4. 実施体制の構築 (要求事項7) 5. 代表者による全体の評価と見直し・指示 (要求事項14) 6. 環境経営レポートの承認 7. その他
環境管理責任者 (EA21事務局)	1. 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価 (要求事項4:事務局担当) 2. 環境関連法規の取りまとめ (要求事項5:事務局担当) 3. 環境経営目標及び環境経営計画の策定 (要求事項6) 4. 環境コミュニケーションの実施 (要求事項9) 5. 取組状況の確認及び問題の是正及び予防 (要求事項13) 6. 環境関連文書及び記録の作成・管理 (要求事項12:事務局担当) 7. 環境経営レポートの作成・公表 (事務局担当)、確認 (環責) 8. その他
部門責任者	1. 教育・訓練の実施 (要求事項8) 2. 実施及び運用 (要求事項10) 3. 環境上の緊急事態への準備及び対応 (要求事項11) 4. その他
全従業員	1. 環境経営方針の理解及び環境問題の現状と環境への取組の重要性の自覚 2. 自らの役割及び実施しなければならない取組・責任の認識

5.環境経営目標

環境経営目標設定表 2023年度

【本社・工場】

項目		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		2022年4月から2023年3月	目標	目標	目標
		実績(基準値)	基準比 1 %削減	基準比 1.5 %削減	基準比 2 %削減
二酸化炭素排出量 (kg-CO2/年)		103,916	102,877	102,357	101,838
電気使用量 (kwh/年)		223,006	220,776	219,661	218,546
燃料使用量	都市ガス(Nm ³ /年)	122	121	120	120
	ガソリン(L/年)	1,230	1,218	1,212	1,205
	軽油(L/年)	—	—	—	—
廃棄物	一般廃棄物(kg/年)	126	124.7	124.1	123.5
	産業廃棄物(kg/年)	12,438	12,314	12,251	12,189
水使用量(m ³ /年)		274	271.3	269.9	268.5
不具合製品の削減(発生件数/年)		25	25	25	25
地域住民への環境に対する配慮		年0件	年0件	年0件	年0件
従業員のエコ活動の定着		年2回	年2回	年2回	年2回

【日本橋営業所】

項目		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		2022年4月から2023年3月	目標	目標	目標
		実績(基準値)	基準比 1 %削減	基準比 1.5 %削減	基準比 2 %削減
二酸化炭素排出量 (kg-CO2/年)		11,367	11,254	11,197	11,140
電気使用量 (kwh/年)		10,725	10,618	10,564	10,511
化石燃料使用量	都市ガス(Nm ³ /年)	0	0	0	0
	ガソリン(L/年)	1230	1217.7	1211.6	1205.4
	軽油(L/年)	—	—	—	—
廃棄物総排出量	一廃	180	178.2	177.3	176.4
	産廃	0	0	0	0
水使用量(m ³ /年)		79	78	78	77
不具合製品の削減(発生件数/年)		45	45	44	44
従業員のエコ活動の定着		年2回	年2回	年2回	年2回

【備考】※二酸化炭素排出係数は2021年東京電力実績の0.452kg/kwhを適用した。

※年度表記は4月～3月の会計年度と同一期間を適用した。

※環境配慮材料とは「RoHs指令対応材料」をいう。

6.環境経営計画

2023年度（2023年4月～2024年3月）
 本社・工場/日本橋営業所 共通

	取組項目	具体的取り組み内容
二酸化炭素排出量削減	電力使用量(基準比1%削減) ・空調の管理 ・エアコンの清掃 ・不要照明の消灯 ・扇風機との併用	エアコン使用時間と訂正温度のルール作り 年2回のエアコン清掃 退勤時の電源確認 休み時の照明OFF 扇風機の活用
	都市ガス・化石燃料使用量(基準比1%削減) ・ラベルの張り出し ・エコドライブの励行 ・適正な車両整備(空気圧など) ・web会議の実施 ・適正なルート選定	エコラベル張り出しによる啓発活動 エコドライブの実施 定期的な車両点検(担当張り出し) 外出の自粛 公共交通機関の利用
廃棄物排出量削減	一般廃棄物(コピー用紙)の削減(基準比1%削減) ・メール・FAXにて通達 ・リサイクルゴミの分別	電子メディアによるペーパーレス化 リサイクルゴミのルール作り
	産業廃棄物(混載)の削減(基準比1%削減) ・不具合製品の削減 ・過剰材料サイズの軽減 ・材料リサイクル業者への引き渡し	不具合製品の発生防止 切削量の軽減 廃材の再利用
水使用量の削減	・水道バルブの調整 ・洗浄作業の削減 ・節水ラベルの張り出し	水道バルブを80%に絞る 洗浄作業の効率化 節水ラベルによる啓蒙活動
不適合製品の削減	本社のみ ・クリティカルパスの管理 ・施工図面の精度向上 ・不具合製品の削減(1%)	RoHs対応材の選択 図面選定時の段取りルートの確立 3Dデータの活用による不具合防止
	日本橋営業所 ・適切な外注の手配 ・指示書図面の精度の向上 ・外注教育	外注不良リストの作成 図面の注意点の指示書の作成 製品受け取り後の製品に対するフィードバック
地域住民への環境に対する配慮	本社のみ ・騒音、粉塵等の抑制 ・産業廃棄物保管場所の徹底 ・地域貢献活動の実施	消音材の使用 廃棄物保管ラックの使用 全員参加で周辺の清掃活動
従業員のエコ活動の定着	共通 年2回の会議	エコ活動講習会 地震発生事態想定 避難訓練

7. 環境経営目標の実績 2023年度

【本社・工場】

No	環境方針 (キー)	環境目標項目	基準値	CO2 排出係 数	活動期間(2023年4月～2024年3月)			
			(2022年度実績)		目 標	実 績	評 価	
1	二酸化炭 素排出量 の削減	電力使用量 の削減	電力使用量 223,006 kWh	0.452	1 %削減 220,776 kWh以下	199,946 kWh	○	
		化石燃料使 用量の削減	ガソリン 使用量<L>		1,230 L	2.32		1 %削減 1,217 L 以下
			都市ガス 使用量<Nm3>	122	2.16	1 %削減 121 Nm3 以下	122 Nm3	×
			二酸化炭素排出量 合計(kg-CO ₂)	103,915 kg-CO ₂			102,876 kg-CO ₂ 以下	
		2	廃棄物排出量の削減 <一廃+産廃>	廃棄物排出量 12,564 kg		1 %削減 12,438 kg 以下	13,760 kg	×
3	水使用量の削減 <水道使用量: m ³ >	水道使用量 274 m ³		1 %削減 271 m ³ 以下	284 m ³	×		
4	不具合品の削減 <発生件数: 件>	発生件数 25.0 件		1 %以上削減 24 件以下	26 件	×		
5	地域住民への環境に対 する配慮 <クレーム件数: 件>	クレーム件数 0 件		発生件数 0 件以下	0 件	○		
6	従業員のエコ活動の定 着	環境活動 2 回		環境活動 2 件	2 件	○		

【日本橋営業所】

No	環境方針 (キー)	環境目標項目	基準値	CO2 排出係 数	活動期間(2023年4月～2024年3月)			
			(2022年度実績)		目 標	実 績	評 価	
1	二酸化炭 素排出量 の削減	電力使用量 の削減	電力使用量 10,725 kWh	0.452	1 %削減 10,618 kWh以下	11,478 kWh	×	
		化石燃料使 用量の削減	ガソリン 使用量<L>		1,230 L	2.32		1 %削減 1,217 L 以下
			都市ガス 使用量<Nm3>	0	2.16	1 %削減 0 L 以下	0 L	-
			二酸化炭素排出量 合計(kg-CO ₂)	7,700 kg-CO ₂			7,623 kg-CO ₂ 以下	
		2	廃棄物排出量の削減 <一廃+産廃>	廃棄物排出量 180 kg		1 %削減 178 kg 以下	195 kg	×
3	水使用量の削減 <水道使用量: m ³ >	水道使用量 79 m ³		1 %削減 78 m ³ 以下	84 m ³	×		
4	不具合品の削減 <発生件数: 件>	発生件数 45 件		1 %削減 45 件以下	55 件	×		
5	従業員のエコ活動の定 着	環境活動 2 件		2 件	2 件	○		

8.環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営目標・計画

No	環境方針 (キー)	環境目標項目	取組項目		取組		次年度の 環境経営目標・計画
					結果	評価	
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	①空調の管理	本社工場	△	電力消費の削減を実施したが、機械の入替や稼働率向上に伴い増加し大幅未達成	・基準値の算出方法の見直し環境目標値の適正化を図る。 ・取組項目は継続。
			②エアコンの清掃	日本橋営業所	○	エアコン使用時の温度管理や不要電力の消灯など取り組んだ	・データ取りを終えたので基準値の設定を行う。 ・取組項目は継続。
		都市ガス化石燃料使用量の削減	③不要照明の消灯	本社工場	○	公共機関を主な移動手段とする事により使用車の長距離移動を削減できた。	・取組項目継続。
			④扇風機との併用	日本橋営業所	○	公共交通機関の利用に取り組んだ。	・データ取りを終えたので基準値の設定を行う。 ・取組項目は継続。
2	廃棄物排出量の削減 <一廃+産廃>	①メール・FAXにて通達	②不良品製作の削減	本社工場	△	売上増加に伴い年末から増加の為未達成。	・基準値を見直し環境目標値の適正化を図る。 ・リサイクル活用の推進。
			③過剰材料サイズの軽減	日本橋営業所	○	リサイクルゴミの分別など取り組んだ。	・データ取りを終えたので基準値の設定を行う。 ・取組項目は継続。
		④材料リサイクル業者への引き渡し	①節水バルブ80%に設定	本社工場	○	従業員数増加により水使用量も増加したが節水意欲の定着により目標達成はできた。	・基準値を見直し環境目標値の適正化を図る。 ・取組項目自体は継続。
			②洗浄作業の削減	日本橋営業所	○	従業員数増加により水使用量も増加したが節水意欲の定着により目標達成はできた。	・データ取りを終えたので基準値の設定を行う。 ・取組項目は継続。
3	水使用量の削減 <水道使用量: m ³ >	①クリティカルパスの管理	②施工図面の精度向上	本社工場	○	生産量増加に伴い不良件数も増加傾向にあったが目標達成はできた。	・取組項目継続及び改善。
			③不具合製品の削減(2%)	日本橋営業所	○	新人教育が不足し不良の増加につながった。	・データ取りを終えたので基準値の設定を行う。 ・取組項目は継続。
		④適切な外注の手配	②指示書図面の精度の向上	本社工場	○	地域住民からのクレーム報告なし。	・取組項目継続
			③外注教育	日本橋営業所	対象外		
4	不具合品の削減 <発生件数: 件>	①騒音、粉塵等の抑制	②産業廃棄物保管場所の徹底	本社工場	○	エコ活動に従業員一同が積極的に取組環境・姿勢が良好にできた。	・取組項目継続
			③地域貢献活動の実施	日本橋営業所	○	エコ活動に従業員一同が積極的に取組環境・姿勢が良好にできた。	・取組項目継続
		④エコ活動に関する周知	②エコ活動の報告会	本社工場	○		
			③エコ活動の指導	日本橋営業所	○		
5	地域住民への環境に対する配慮 <クレーム件数: 件>	①エコ活動に関する周知	②エコ活動の報告会	本社工場	○		
			③エコ活動の指導	日本橋営業所	○		
		④エコ活動に関する周知	②エコ活動の報告会	本社工場	○		
			③エコ活動の指導	日本橋営業所	○		
6	従業員のエコ活動の定着	①エコ活動に関する周知	②エコ活動の報告会	本社工場	○		
			③エコ活動の指導	日本橋営業所	○		
		④エコ活動に関する周知	②エコ活動の報告会	本社工場	○		
			③エコ活動の指導	日本橋営業所	○		

※取組結果の評価基準 ○: 取組良好、△: 問題があるが取組んでいる、×: 取組んでいない

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴状の等の有無

当社に關係する環境関連法規等は下記の通りですが、下記のように遵守状況を2023年4月に確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

環境関連法規等遵守状況

区分、環境関連法規等名称、遵守結果		
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	適合
	葛飾区・中央区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	適合
資源循環	資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)	適合
(リサイクル)	特定家電機器再商品化法(家電リサイクル法)	適合
	使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	適合
地球温暖化防止	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン抑制法)	適合
		適合
騒音・振動	騒音規制法	適合
	振動規制法	適合
	東京都生活環境保全等に関する条例(東京都環境確保条例)	適合
規制物質	RoHS指令	適合

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

【総括】

2024年は営業新卒7名採用にともない営業活動は大幅に力を入れて2023年以上の大幅な売り上げの向上を目指していく
 エコ活動は新人含め徹底して行い目標達成に向けて取り組んでいく
 日本橋も取り組みから2年となり売上大幅を目指しCO2排出量の増加が見込まれるが
 エコ活動に注力し経費削減とCO2排出の削減に力を入れていきたい
 排出量を管理、分析して、常により良いエコ活動を行い
 環境保全活動を進めていく

以上